



学校だより

No.544

令和 5年 1月31日

練馬区立田柄第二小学校

校長 岩井 一 雄

教育目標：◎思いやる子供 ・ 元気な子供 ・ 考える子供

子供たちから教わること

副校長 新保 有希子

学校での子供たちは、いつも目をキラキラさせながらはじけるように元気に過ごしています。学年が上がると、こちらがはっとするような鋭い意見を発したり頼もしい行動力を見せたりして驚かされることも多いです。

そんな子供たちの様子を見てみると、ふとした瞬間の振る舞いに「なるほど」と思うことがあります。大人がつい忘れがちな、しかしとても大切にしていかなければならないことです。

最近私が子供たちに気付かせもらった3つのことをご紹介します。

① マスク生活の中での目と声の表情の大切さ

学校で子供たちとすれ違うと、元気よく挨拶をしてくれます。「おはようございます!」「あ、副校長先生!!」と明るいトーンの声で、語尾に「!!」がついているような口調です。また、目元は目じりが下がりマスクの向こうは笑顔でいることが分かります。

今は、顔の半分がマスクで隠れていますから、相手の表情を伺い知ることは難しいのですか、そのように目と声の表情を意識的に明るくすることは大切ですね。マスク生活ならではのコミュニケーションのコツだなと思いました。

② ちょっとした雑談で相手との心の距離を縮める

先日、6年生の男の子に「副校長先生、先週の大河ドラマ観た?」と聞かれました。そこから話が盛り上がり、あの場面はどうだったとか、あのセリフにしばれたとかたくさん話をし、とても楽しいひと時でした。私は担任ではないので、彼と毎日会うわけではないのですが、その子と少し心が通ったような気持ちになりました。日常のちょっとした会話が相手のことを理解するきっかけになることは多いです。相手との関係性を作るのに雑談力は大切だなと感じました。

③ 相手のよさに目を向ける

先日、4年生の男の子ふたりの間にちょっとした言い合いのケンカがあり、仲裁に入りました。きっかけはとても小さなことですが、イライラがエスカレートしてしまったようです。「相手のこの行動にどんな気持ちになったのか」とか「本当はどう伝えたらよかったのか」など、細かく振り返りながらお互いが反省し、ごめんなさいと言い合いました。その話の最後に「でも、〇〇くんは工作が得意だからすごい」「□□くんは、いつも授業中に一生懸命勉強していてかっこいい」と相手の良いところを伝え合いました。すると心が明るくなったようで、二人一緒に笑顔で教室まで戻っていきました。人間ですから相手の言動に不快な気持ちになることもあります。でもそんなときでもその人の「良さ」に目を向けることは大切です。相手の一面だけを見て責めるのではなく、多面的に見て受け入れる、そんな気持ちが人間関係を円滑にするコツなのかもしれません。

以上、多くの子供たちの様子から私自身が改めてその大切さを考えることができた出来事です。これらのことは、円滑なコミュニケーションのための基本的なことかもしれません。それを自然と振る舞っている子供たちの素敵な姿にとってもうれしくなりました。

3学期に入り、1年間のまとめに向けて慌ただしい毎日ではありますが、学級担任の教員たちは、「毎日忙しいけれど、子供たちから元気をもらっている」と言っています。

私たちは日々、子供たちからパワーをもらい学ばせてもらっているのです。

2月の生活目標 「廊下・階段は静かに右側を歩こう」

田二小では、「廊下や階段は右側を静かに歩く」や「クラスでの教室移動は2列に並んで、廊下の右側を静かに歩く」など、廊下歩行のルールがあります。ルールを守って安全に過ごせるよう声をかけていきます。代表委員会が、廊下歩行改善の取り組みとして、「廊下を歩こう!キャンペーン」を計画しています。全校で折り鶴を一人一つ折り、廊下・階段に設置することで右側を歩く意識をもってもらうという内容です。活動を通して、廊下歩行の意識ができるよう指導していきます。